

【NY 2016/02/26(金)】 NYMEX 原油先物価格(ドル/バレル)

| 限月      | 始値   | 高値    | 安値    | 終値    | 帳入値   | 前日比   | 出来高       | 取組高       |
|---------|--|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----------|
| 2016/04 | 33.04                                      | 34.69 | 32.64 | 32.84 | 32.78 | -0.29 | 621,644   | 504,402   |
| 2016/05 | 34.64                                      | 36.43 | 34.45 | 34.65 | 34.58 | -0.25 | 147,148   | 260,453   |
| 2016/06 | 36.00                                      | 37.65 | 35.68 | 35.88 | 35.83 | -0.29 | 107,203   | 202,341   |
| 2016/07 | 36.75                                      | 38.48 | 36.57 | 36.59 | 36.72 | -0.33 | 34,945    | 83,096    |
| 2016/08 | 37.55                                      | 39.18 | 37.25 | 37.46 | 37.43 | -0.37 | 28,344    | 57,581    |
| 全体      | Last Updated: Friday, 26 Feb 2016 06:00 PM |       |       |       |       |       | 1,099,755 | 1,777,817 |

【NY原油概況と分析】 小反発、週末を前に買い玉整理の動き

新規手掛かり難から週末を控えてポジション調整中心の展開になる中、短期筋の手仕舞い売り主導で小反落した。

20カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議のイベントリスク警戒から、アジア・欧州タイムはショートカバー (買い戻し) 主導で地合を引き締める展開になった。33ドル台での値固めを経た後、一時は34.69ドル (前日比1.62ドル) まで値位置を切り上げている。ただ、その後は週末を前に買い玉整理の動きが強まり、小幅ながらマイナスサイドに沈んでいる。ドル高・株安などの影響も指摘されているが、1月28日以来の高値を更新したことで、単純に週末を前に買い玉整理の動きが広がった模様だ。

前日はベネズエラ、サウジアラビア、ロシア、カタールの4カ国が3月中旬に会合を行うと発表し、マーケットでは産油国の国際協調が更に進むリスクが警戒されていた。しかし、その後は特に目立った進展などは報告されておらず、政策調整の可能性を更に織り込むような動きは見送られている。引き続き産油国が活発な動きを見せていることには注意が必要だが、イランとイラクが産油量凍結を拒否し、サウジアラビアが減産の可能性を明確に否定する中、政策調整を進める余地は多くない。徐々に原油相場に対する影響も後退する方向でみている。

石油会社の経営環境悪化、それに伴う金融機関の債務健全性が疑問視されるなど、行き過ぎた原油安に対し

ては懸念の声も強い。このまま更に原油安を促さなくても、現行価格であれば高コスト原油の生産調整が進むとの期待感もあり、安値警戒感が広がり始めていることは間違いない。しかし、価格が上昇すれば生産調整の動きに先送り圧力が強まるのは必至であり、少なくとも目先の大きな上昇余地を想定することは難しい。寧ろ、価格低下を進めることで、生産調整の動きを確実なものに発展させる必要性が高いと考えている。

米ベーカー・ヒューズ社によると、2月26日時点の米石油リグ稼働数は前週比13基減の400基となった。急激な減少傾向が続いているが、現時点では産油量データへの影響までは確認できず、こうした統計をポジティブ材料と評価するのは難しい。

このまま産油国が生産調整で協調できないのであれば、原油相場の下振れリスクは残る。なお過剰供給解消に多くの時間が要求される中、「政策」か「価格」で生産調整の動きを促す以外の選択肢はない。このまま「政策」で需給リバランスを加速させるのが困難であれば、改めて「価格」で強制的に生産調整を促すことになる。原油需給均衡化のためには、20ドル割れ定着から瞬間的にであれば、10ドル台に突入するリスクも想定しておく必要がある。

## 注意事項

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。

本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。

本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。

本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

## 本レポートの発行者

- 【会社名】 マーケットエッジ株式会社 (Marketedge Co., Ltd.)  
【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1 (古川ビル4F)  
【URL】 <http://www.marketedge.co.jp/>  
【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

### 【執筆者プロフィール】

マーケットエッジ株式会社 代表取締役 小菅 努 (こすげ・つとむ)  
1976年千葉県生まれ。筑波大学卒。商品先物取引会社の営業本部を経て、同時テロ事件直後のニューヨーク事務所にてコモディティ・金融市場の分析を学ぶ。帰国後は調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社代表に就任。東京商品取引所認定・上級知識修得者（貴金属、石油、ゴム、農産物）。

E-mail: [kosuge@marketedge.co.jp](mailto:kosuge@marketedge.co.jp)

Twitter @kosuge\_tsutomu